

# 九州ブロック国体 参加報告書

高体連 隈元 ゆみこ

大会名：令和元年度 国民体育大会 第39回九州ブロック大会

派遣期間：令和元年8月23日（金）～8月25日（日）

場所：唐津市鎮西スポーツセンター体育館、唐津工業高等学校体育館

## 1. 担当ゲームについて

### <PGC>

「クリーン・ザ・ゲーム」のために、「ベーシックなメカニクス」「シンプルなプレーコーリング」「処置ミスゼロ」をテーマに今シーズンの課題でもある「アクティブ・リード」「チェックイン・チェックアウト」「POC」「デリバリースキル（伝える力）」について、メカニクス、IOT、プライマリー、コーナーでのショットにおけるフロアカバレッジ、ローテーション、クルーワーク、ガイドライン、UFのクライテリアといったところから、基本的なことを3人で確認した。また、担当ゲームにおける、チームの特徴、キーマンについてなどそれぞれがもっている情報を出し合い、共有した。

### <担当ゲーム>

8月24日（土） 少年女子（U-16） 宮崎県 対 福岡県

CC:隈元 U1:岡井（佐賀県B級） U2:溝上（佐賀県B級）

### ゲームの実際

U16となったこともあり、昨年までの少年女子のゲームと比較すると、体格面や技術面で未熟な部分を感じながらのゲームとなった。特に前半は、Lのローテーションがプレイとマッチせず、TTLになってしまう場面が多く見受けられ、メカの崩れが目立った。後半になるにつれて、その不具合が解消できた部分はあったが、チェックイン・チェックアウトの部分が課題となった。そんな中で、選手が大きく倒される場面いくつかあり、UF（C2）として判定すべきかどうか、クルーとのコミュニケーションにおいて、短い言葉でどう自分の考えを伝えるか、決断するかという部分で課題が残った。また、福岡ベンチの「おい！」という言葉に対して、特に、会場に響いた一つの場面において、「クルーとして何も対応しなかった」ということが一番まずいことであった。ベンチコントロールにおいて課題の残るゲームとなった。

### ゲーム後MTG 主任：石嶺 良方 氏（沖縄県A級）

宮崎のインサイドがケガをした場面で、UF（C2）はなかったか。結果NFとしたが、プライマリレフリーはどのようにあのプレイを捉えていたのか。POCの確認含め、また、ケガでその後ゲームに出れなかったことを考えると、UFとして処置することがベストだった。CCがコミュニケーションをとりについてはいたが、UFではないかという考えをもっているため、クルーの意見もあったかもしれないが、客観的に第三者からみてどう見えるかということもふまえて決断が必要であった。また、コーチの「おい！」という言葉に対して、選手を鼓舞している声の一つでもあるが、やはりコーチとコミュニケーションをとるなど、何かしら対応すべきであった。今は、そういったベンチの声や態度など

に対して、対応しなかったことへの問題提起がおこってくる。周りから見られているという意識をもつともつべきである。

8月24日(土) 成年女子 福岡県 対 沖縄県

CC:隈元 U1:樋口(大分県A級) U2:岡井(佐賀県B級)

#### ゲームの実際

岡井氏とは連続のクルーであったので、1試合目の反省であった、LのローテーションやニューLに入る際、逆サイドのCを確認すること(自分がLなのかCなのかの確認を含めて)、3or2のアシストよりもオフボールでのリバウンド争いを優先しなければならないことなど、U16と比較すると、よりプライマリをはっきりさせ、チェックイン・チェックアウトをしなければ、いろんな場所でアクティブなマッチアップがでてくることなどについて話をしたのである。

ドライブプレイに対するポジションアジャストができておらず、判定につなげられないことがあり、決断に迷いが生じた。後方からのリバウンドにおける判定についても、課題が残った。

ゲーム後MTG 約1時間ゲームが遅れていて、ゲーム後すぐにA級更新講習及び2級インストラクター更新講習のため、実施せず。

8月25日(日) 成年男子 熊本県 対 沖縄県

CC:大久保(長崎県A級) U1:古後(福岡県A級) U2:隈元

#### ゲームの実際

1Qのテンポセットという点からすると、沖縄ベンチからアピールのあった、熊本の手の使い方について、プライマリである自分がしっかりと決断をくださるべきであった。RSBQの確認、REF-D含めて、しっかりとした基準を示すことができなかった。そういったところで、沖縄にストレスをためてしまう原因をつくってしまったように思う。ドライブに対するプレイの見方、見極めについて弱い部分を感じた。1Q終盤から2Q中盤までのところでゲームコントロールにつながる判定ができなかったところが課題である。初めての成年男子の割り当てであったが、クルーに助けられ、何とか1試合を終えることができたことは、私自身にとっては大きな財産となった。

ゲーム後MTG 主任:宮武 庸介 氏(T級インストラクター)

1Qいくつかの取りこぼしはあったものの、それなりの入り方はできていた。そんな中で、ゲームフローの把握という観点から、2Qの3分49秒での古後氏のファウルコールまで、ファウルが2つしかないというところに、このゲームをリードできていなかったことがうかがえる。この場面で判定したことにより、その後のゲームも落ちついてきた。(アクティブマインドセット)

わかったものだけを判定するという姿勢はうかがえたので、それは続けてよい。わからなかったケースについて、触れあいは確認しているがファウルかどうか決められていない。その原因は、Ref-Dの見方の弱さ、オフENSEを線で追ってしまっていることにある。Ref-Dについて、もっとしっかりと。プレイのその先でディフェンスが何をするのか、そういう見方を。プレゼンについて、時折レポートが早いので、しっかり伝えること、見られていることを意識したプレゼンの工夫を。Tのファーストポジシ

ョンが低いために、全体を捉えられていないことがあるので、オープンアングルを意識。映像で確認すると良い。

### 3. まとめ

今シーズンの課題である、「チェックイン・チェックアウト」「マージナルとインパクト（イリーガル）の見極め」「ゲームコントロール」を意識して、割り当てられた3試合に臨みましたが、終えてみて感じたことは、特に「チェックアウト」がうまくいっていないことによるメカの崩れや、ポジションアジャストの遅れ、Ref-Dの弱さ、「アクティブ・マインドセット」の弱さを感じました。「何をそのゲームでリードし、メッセージしたいのかのイメージをもつ」ことに対して確固たるものを持つためには、IOTの理解とこだわりをもって実践することの積み重ねが必要です。再度映像を振り返り、上手くいかなかったこと、失敗したことを次のゲームにつなげるにはどうすべきかを考え、実践につなげていきます。また今回、成年男子のゲームを担当させていただけたことは、自分自身にとって貴重な経験となりました。このような機会を与えてくださったことに感謝するとともに、さらなるレベルアップのための努力を積み重ねていきます。

今回の派遣にあたりお世話になりました佐賀県バスケットボール協会及び審判委員会の皆様、色々ご配慮いただいた原田審判長はじめ鹿児島県審判委員会の皆様に感謝し、報告といたします。ありがとうございました